

『一緒に頑張れる心強い仲間がいる』

埼玉県教員採用試験（高等学校等教員）合格
近藤辰哉さん（川口市立川口高等学校出身）

①なぜ、この大学を選んだのか。

体育関係の大学を探していた中で見つけました。他大学でも教員の免許を取ることはできましたが、日本大学文理学部は教員養成にとっても力を入れているということを知り、「もうここしかない。」と思いここを選びました。体育関係の授業はもちろん、他にもたくさん学科があり幅広い領域を学ぶことが出来るというところにも惹かれて入学しました。



②教師を目指したきっかけ。

中学生の定期考査試験の際に友達がわからない問題があるから教えてほしいと私に言ってきたので教えてあげました。その時にわからなかった子がわかるようになった時に教えることの楽しさというものを感じたのがきっかけです。自分の好きなことを教えたいと思い何が好きなのかということを考えた時に体を動かすことが真っ先に思い浮かんだので体育の教員を目指すようになりました。

③教師になるためにどんなことをしてきたか。

教員は話すことが出来なくては生徒に理解させることはできないと思い、人前に立って話す機会を自らつくるようにしてきました。私の場合は体育祭の実行委員をやっていたのですが、その中で役職に就き何度もみんなの前で説明をしたり指示を出したりしました。その成果があったのかはわかりませんが、教育実習で生徒を目の前にした状況でも緊張することなく話をすることが出来ました。

④印象にある授業は。

鈴木理先生の保体科実践演習という授業が一番印象に残っています。やっていることはいわゆる模擬授業ですが、その授業についての反省をみんなで話し合い、課題や改善点を出し合ったり、当たり前に使われている言葉（走る、跳ぶ、スペース）はどんなことをしているのか、どんなことを意味しているのかを考えたりしました。正直わからないことの方が多かったのですが、この授業を通して当たり前に使っている言葉ほどあいまいなものはないのだと感ずることが出来ました。

⑤教員採用試験の対策について。

志望自治体の出題傾向について早い段階で知るところから対策を始めました。それぞれの自治体によって出題領域が違うのでこれは絶対です。MUSTです。勉強は大学で開かれる東京アカデミーの講座に通い、配布されたテキストを中心に使いました。正直参考書に書かれているもののほとんどは出題されることがないのでより大事なところだけ抜粋した自分オリジナルの参考書を作りました。あとは問題集を何度も解き「このワードの時には答えはこれ」となるようにまでしました。わからなかった問題は参考書に付けたし覚えるようにしました。二次試験の対策は1次試験の合格通知がくるまでやっていなかったのが参考になることは言えませんが、大学で開かれる2次試験対策講座には必ず出てください。現職の管理職の先生がたくさんアドバイスしてくれます。私の場合勉強に熱が入ったのが遅かったので試験直前まで猛勉強をしなければならぬ壮絶な日々だったのでそうならないように早くから取り組むことをお勧めします。



⑥どんな教師になりたい。

自分の持ち味は元気と明るさだと思います。自分がいるだけで何となく職場や教室が明るくなれるようなそんな先生になりたいと思います。もちろん仕事ができるようになりたいと思いますが、それ以前に教員も一人の人間ですので人間性を磨き誰からも頼られ「近藤先生なら安心して仕事を任せられる」と言われるようになりたいです。いや、なります。

⑦後輩に一言。

本気で教員になりたいのであれば死ぬ気で勉強してください。死ぬ気でやっても死ぬことはありません。正直辛いことしかないとは思いますが諦めずひたむきに続ければ少しずつでも力はついてきます。また、一緒に頑張れる仲間を見つけてください。私の周りには教員を目指す心強い仲間がたくさんいました。「あいつが頑張ってるんだから俺ももっと頑張らないと」と何度も思いました。教員採用試験は孤独な戦いのようで協力戦だと私は思います。ともに高い意識を持ち合い高め合えるような仲間を見つけてほしいです。また、まだ時間があるから大丈夫と思っている人がいたら全然大丈夫じゃないのですぐに対策に取り掛かりましょう。大学生活はあっという間に過ぎて行っている間にか採用試験がやってきます。始めるのは早ければ早いほどいいです。いいに決まっています。私は一足先に現場に立ちますが日大の後輩と同じ現場で働けることを楽しみにしているので頑張ってください。